

5. おわりに

平成 23 年(2011 年)東北地方太平洋沖地震で得られた、建築研究所の強震観測ネットワークで得られた強震記録の概要を紹介し、建物内で得られた強震記録の詳細を報告した。この中には、大破した建物 1 棟、構造的には軽微であるが設備機器や非構造部材に被害が生じた建物が数棟含まれている。また、超高層建物が 9 棟、免震建物が 6 棟あり、長周期地震動に対する長周期構造物の応答も観測されている。本報告では、東北地方太平洋沖地震の本震の記録を詳細に扱ったが、紹介した以外にも前震や余震、更には誘発地震で膨大な強震記録が得られている。この貴重な強震記録が、さらなる分析や解析を通じて、建物の耐震安全性の向上に資することを願っている。

なお、東北地方太平洋沖地震を含め、建築研究所の強震観測で得られた強震記録は、強震観測のウェブサイト(<http://smo.kenken.go.jp>)上のデータベースに随時登録され、ウェブサイト上で強震記録の検索に加えて、加速度波形や応答スペクトルの表示が可能である。また、地表や建物の地表に近い加速度計の強震記録は自由にダウンロードできるようになっている。

最後に、建築研究所の強震観測は、観測対象建物の所有者や管理者、利用者の深いご理解と多大なご協力の上に成り立っている。ここに関係各位に心から謝意を表す。